

さあ！対話を始めよう

記念すべき第 50 回目の集会在今から始まります。

新型コロナウイルスによって引き起こされたパンデミックという想像したこともない状況が 2 年近くも続く中で私たちはここに集いました。

集会の開催に当たって会場に集まった皆さん、リモートで参加のみなさん。そしてわたくしたちの活動を支えともに進む全ての仲間たちに連帯の挨拶を送ります。

残念な事ですが昨年続き今年もリモート中心の全国集会となりました。皆さんと祝うことを楽しみにしていた 50 周年のレセプションが出来ないことがとても残念です。

子どもの組織を育てるための新しい提言作りが止まっている事が気がかりですが、そこは新型コロナが時間をくれたのだと考えて、より良い新提言作りを目指して仕切り直しましょう。

2 年前の 11 月、武漢で変な病気が流行って人が死んでいるらしいと言うニュースが飛び込んで来ました。中国が情報を正しく流さないうちに被害が広がり WHO の判断が遅れたことから被害は世界に蔓延してしまいました。

外国からの観光客で日本中が賑わったお正月が終わった頃から「コロナ」「新型

ウイルス」などの言葉が飛び交い、漠然とした恐怖感に包まれる中でWHOによりパンデミック宣言が出されました。

日本国内ではまだそれほど大きく広がっていなかったことも有り、起きている事の重大さがまだよく分らず、各地の少年少女センターでは、雪祭りや春の取り組み、卒団式や入団式など、楽しい企画が様々に準備されていました。

ところが、文科省や大臣さえも否定していた学校の全国一斉休校の要請が安倍元首相の一存で発表されたのです。一人の人間の勝手な思いつきで卒業式も入学式も無くなるという異常事態が起きました。

学校が休校となる中で不安は広がり、地域での取り組みも中止へと追い込まれました。ソーシャルディスタンスなる聞きなれない言葉が飛び交い、マスク生活を強要され、話すことも、手をつなぐことも、笑いあうことも、遊ぶことも禁止されました。

学校が再開されても校庭に子どもの姿は見えず、友達と一緒に登下校することさえも禁じられました。

学校から、地域から子どもの声が消えたのです。

乳幼児の世界にまで同じ状況が押し付けられました。保育室の中で子どもたちはマスクをして距離を置いて座り、黙食を強制されたのです。

「遊びは子どもの主食」であること「子どもは大人と共に生きる仲間であり一緒

に考える権利を持っている」ことを大切にしてきた私たちは、これはおかしいと  
考え、2020年3月9日に「一人ぼっちをなくそう～外に出よう～ 新型コロナ  
ウイルスの感染拡大防止と、子どもの遊ぶ権利を守るために」と題する声明を発  
表し、コロナ禍で自粛が声高に叫ばれる中であっても子ども達が仲間と集まり  
楽しく遊ぶ為の工夫をしようと訴えました。

この訴えは、皆さんに積極的に受け止められ、様々な工夫と取り組みの模索が始  
まりました。具体的な取り組みは「ちいきとこども」誌28号と29号に連続特集  
されています。

多くの記事の中に子どもの笑顔があふれています。皆で考え工夫をして楽しい  
時間を作ろうとくじけずに前を向く子どもたちがいます。そしてその向こう側  
には悩み苦しみながらもしっかりと手を結び、前を向こうとする青年と父母の  
姿が見えます。

活動が続けられなくなった地域も少なくありませんが、そこにも歯を食いしば  
って前を向こうとしている仲間がいます。

今、新型コロナの蔓延が下火になってはいますが、まだまだ収束の兆しは見え  
きません。

第50回少年少女組織を育てる全国集会は、開会に当たって参加者の皆さんに  
「対話」を呼びかけます。

それぞれの地域で、「対話の輪」を広げること呼びかけます。

コロナ禍で悩んできたこと、考えたこと、もやもやしたこと、悲しかったこと、苦しかったこと、嬉しかったこと等、自分の心の中にある思いを言葉にして表現し合いましょう。

対話を通してこそ、新しい自分が見えます。新しい仲間の姿が見えます。

対話は成長と発展の源泉です。

コロナ禍で私達は大きく賢くなったと、胸を張って言える明日を創っていきましょう。

2021年11月20日 少年少女センター全国ネットワーク